【いわき FC】2024Jリーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート
坂岸　寛大

2024 年 6 月 5 日（水）、いわき市介護老人保健施設サンライフゆもとで、坂岸　寛大　選手が、地域×いわき FC のタッチポイント創出としてクラブ運営サポート活動を行いました。

■関連部署
地域推進

■活動内容、目的
内容：認知症の方との好みの香りのペーパーフラワー作り交流
目的：地域に選手が積極的に顔を出し、地域と交流することで、選手一人ひとりがホームタウンへの愛着を持ち、地元からも愛されることで、地域活性化に繋げ、見込み客の獲得・既存顧客との関係深化に繋げる。クラブと地域や企業を結ぶ大事な活動であるため、積極的に機会を創出することで地域活性化・パートナーメリット最大化に繋げクラブの価値向上・収益増に繋げる。

◎選手のコメント
坂岸　寛大　選手
一緒にペーパーフラワーを作って好きな香りを見つけたりしました。交流する前は暗いイメージしか持つ事が出来ていませんでしたが、一緒に作業をすることで笑顔で楽しんで頂いて介護施設に対する見え方も変わりました。

写真提供／いわき FC

【いわき FC】2024Jリーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート
大西　悠介

2024 年 7 月 2 日（火）、ホームタウン広野町特別養護老人ホーム花ぶさ苑で、大西　悠介　選手が、地域×いわき FC のタッチポイント創出としてクラブ運営サポート活動を行いました。

■関連部署
地域推進

■活動内容、目的
内容：入居者さまとともにセラピードック交流、エール応援手形横断幕制作
目的：地域に選手が積極的に顔を出し、地域と交流することで、選手一人ひとりがホームタウンへの愛着を持ち、地元からも愛されることで、地域活性化に繋げ、見込み客の獲得・既存顧客との関係深化に繋げる。クラブと地域や企業を結ぶ大事な活動であるため、積極的に機会を創出することで地域活性化・パートナーメリット最大化に繋げクラブの価値向上・収益増に繋げる。

◎選手のコメント
大西　悠介　選手
特別養護老人ホームでご高齢の方々の笑顔やリラックスした雰囲気に触れ、自分の活動を通して少しでも喜びや元気を届けられることの大切さを実感できて温かい経験でした。

写真提供／いわき FC

【いわき FC】2024Jリーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート
加藤　悠馬

2024 年 9 月 21 日（土）、ホームタウン広野町特別養護老人ホーム花ぶさ苑で、加藤　悠馬　選手が、地域×いわき FC のタッチポイント創出としてクラブ運営サポート活動を行いました。

■関連部署
地域推進

■活動内容、目的
内容：入居者さまとともにエール横断幕のお披露目会、香りのワークショップ
目的：地域に選手が積極的に顔を出し、地域と交流することで、選手一人ひとりがホームタウンへの愛着を持ち、地元からも愛されることで、地域活性化に繋げ、見込み客の獲得・既存顧客との関係深化に繋げる。クラブと地域や企業を結ぶ大事な活動であるため、積極的に機会を創出することで地域活性化・パートナーメリット最大化に繋げクラブの価値向上・収益増に繋げる。

◎選手のコメント
加藤　悠馬　選手
普段なかなか関わることのない高齢者の方々と直接ふれあい、「いわき FC 応援してるよ」などたくさんの声をもらって、改めて自分たちはいろいろな人に支えられていると感じた。エール横断幕は美しいのはもちろん、その中にも想いを感じることができてとても幸せに感じた。

写真提供／いわき FC

【いわき FC】2024Jリーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート
白輪地　敬大

2024 年 10 月 10 日（木）、いわき市立平第五小学校で、白輪地　敬大　選手が、地域×いわき FC のタッチポイント創出としてクラブ運営サポート活動を行いました。

■関連部署：地域推進

■活動内容、目的
内容：サプライズ学校訪問、児童とのスポーツ交流
目的：地域に選手が積極的に顔を出し、地域と交流することで、選手一人ひとりがホームタウンへの愛着を持ち、地元からも愛されることで、地域活性化に繋げ、見込み客の獲得・既存顧客との関係深化に繋げる。クラブと地域や企業を結ぶ大事な活動であるため、積極的に機会を創出することで地域活性化・パートナーメリット最大化に繋げクラブの価値向上・収益増に繋げる。

◎選手のコメント
白輪地　敬大　選手
小学校訪問ということでプロとして一番実感のある活動になりました。子どもたちと深く交流したことでいつも応援してくれている中で自分もサッカー選手として責任と自覚をより感じた時間になったと思います。自分もサッカーのところで今以上に努力して活躍して次行ったときはもっと喜んでもらえるように日々継続しようと思いました。

写真提供/いわき FC

【いわき FC】2024Jリーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート
近藤　慶一

2024 年 10 月 30 日（水）、いわき市立遠野小学校で、近藤　慶一　選手が、地域×いわき FC のタッチポイント創出としてクラブ運営サポート活動を行いました。

■関連部署：地域推進

■活動内容、目的
内容：小学生と一緒に給食交流
目的：地域に選手が積極的に顔を出し、地域と交流することで、選手一人ひとりがホームタウンへの愛着を持ち、地元からも愛されることで、地域活性化に繋げ、見込み客の獲得・既存顧客との関係深化に繋げる。クラブと地域や企業を結ぶ大事な活動であるため、積極的に機会を創出することで地域活性化・パートナーメリット最大化に繋げクラブの価値向上・収益増に繋げる。

◎選手のコメント
近藤　慶一　選手
地域の子どもたちと交流することでいわき FC の知名度や自分の認知度を知ることができ、まだまだ努力して子どもたちにわかってもらえるくらいの選手にならないとなと感じた。また子どもたちの元気な姿を見て、自分もパワーをもらえましたしもっと頑張ろうという気持ちになりました。この経験をいかして、子どもたちともっと交流していきたいと思った。

写真提供／いわき FC

【いわき FC】2024Jリーグ新人研修　シャレン！活動レポート
加藤　悠馬、大西　悠介、坂岸　寛大、近藤　慶一、白輪地　敬大

2024 年 9 月 19 日（木）いわき市総合保健福祉センター内で、加藤　悠馬　選手、大西　悠介　選手、坂岸　寛大　選手、近藤　慶一　選手、白輪地　敬大　選手が「選手と一緒に学ぼう！認知症サポーター養成講座」と題し、サポーター120 名とともにシャレン活動を行いました。

① 地域・社会課題：

いわき FC のホームタウンであるいわき市は、成人の生活習慣病の出現率や子どもの肥満度が高く、全国の中でも肥満の方が多くいわき市の大きな課題となっている。

② 協働者：

いわき市　保健福祉部 地域包括ケア推進課、社会福祉法人 ハートフルなこそ

③ 活動概要や内容、目的

【概要】

認知症は高齢者に多く見られる疾患であり、高齢化社会の進行に伴い、いわき市でも認知症患者の増加が懸念されています。

これに伴い、介護や支援がますます必要となりますが、社会的にはまだ認知症に対する理解が不足している傾向があるため、認知症患者やその家族には、行政、医療機関、地域が連携して様々な面での支援が必要であり、それらが不十分だと、認知症患者とその家族が孤立するリスクが高まることから、包括的なサポート体制を構築することが求められています。

そのためには、一人ひとりが認知症への理解を深め、啓発活動を行うことが必要であることから、いわき FC では、選手やクラブスタッフ、そして日ごろからクラブを応援してくださるサポーターの皆さまが「認知症サポーター」となり、クラブ全体で認知症サポートに取り組むことで、より多くの方に認知症に対する正しい知識を発信し、差別や誤解のない、すべての人が安心して暮らせるまちづくり、スタジアムづくりの一端として、プロスポーツを認知症患者の方々に社会的なつながりを提供する場とすることを目指します。

【内容】

認知症を理解し、自分ができることを知るために、認知症とはどのようなものなのか、どんな症状があり、周囲がどんな支援ができるのかを、講話や動画視聴、講師とのシミュレーションを通して学ぶことで、自身が認知症サポーターになった。

また今回は、いわき FC ファンクラブ会員 120 名とともに受講し、選手自身の家族との関わりなどのクラブに関わる皆で、安心して暮らせるまちづくり、スタジアムづくりを実現する一歩とした。

◎選手のコメント

加藤　悠馬　選手

自分自身も最近祖母のことを考えることが増えた中での今回の講義だったのでとてもためになり、今後に活きることをたくさん学べた。「頼られること」を喜ぶということを知ることができたので、なん

でもやってあげるではなく、お願いできることは頼りながらサポートしていこうと思った。

大西　悠介　選手
アスリートとしてフィジカルの強さだけではなく社会貢献や周囲の人々への思いやりも重要だと感じた。サッカー選手としてだけでなく、一人の社会の一員として学んだことを活かしていきたい。

坂岸　寛大　選手
認知症は辛くていやなイメージだったが、役割を与えられて喜ぶ姿や、笑顔で職員の方々と楽しむ姿を見て考え方が変わった。理解してともに日常を楽しむことも大切だと思った。初期症状に早く気づいて治療することで治せたり悪化を防ぐことができると学んだので、正しい知識を知ることも大切だと思った。

近藤　慶一　選手
認知症を知ることでどのような症状が出てしまうのか、どのような行動をしてしまうのか知ることができました。また、早期に認知症が発見できれば、サプリや注射で治すことができることを知りました。

白輪地　敬大　選手
本日の講義を聞いて、認知症の方々との関わり方を深く学ぶことができました。今回で自分も認知症サポーターの一員になったので、周りの人がいつ認知症になっても対応できるようにしていきたいです。そしてサッカー選手としても、認知症の方々の応援を力に変えてこれからも成長していきたいと思います。

写真提供／いわき FC

認知症サポーター
養成講座
9月19日